

行事案内	月	日	行 事 名	場 所	掲載ページ
本 部	6月27日	(火)	ダム基礎岩盤のグラウチング施工指針講習会 映画会 第12回地震工学研究発表会 第8回水工学に関する夏期研修会 高校土木科教職員を主対象とする夏期講習会 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートに関するシンポジウム 昭和47年度夏期講習会 第5回土木計画学講習会 同 昭和47年度全国大会 第19回海岸工学講演会	東 京	5月号本文129 //
	7月8日	(土)		土 木 学 会	本号本文121 //
	7月18日	(火)		同	本号本文122 //
	7月19日	(水)		同	本号本文124 //
	7月26日	(水)		同	本号本文128 //
	~8月3日	(木)		同	本号本文126 //
	8月2日	(水)		東 京	本号本文124 //
	8月4日	(金)		土 木 学 会	本号本文127 //
	8月24日	(木)		大 阪 市	本号本文127 //
	8月30日	(水)		福 岡 市	本号本文120 //
	~31日	(木)		東 京	本号本文129 //
	9月4日	(月)		同	
	9月5日	(火)		同	
	9月11日	(月)		同	
9月12日	(火)	同			
10月20日	(金)	同			
~22日	(日)	同			
11月13日	(月)	同			
~14日	(火)	同			
中 部 支 部	6月21日	(水)	第1回見学会 第1回講演会	名古屋市	本号本文130 //
	7月14日	(金)		同	本号本文130 //
関 西 支 部	6月27日	(火)	講 習 会 講 習 会	大 阪 市	5月号本文139 //
	~28日	(水)		同	本号本文130 //
	7月25日	(火)		同	
西 部 支 部	8月24日	(木)	夏期講習会	熊 本 県	本号本文132 //
	~25日	(金)			
お 知 ら せ	■土木学会総会ならびに土木学会全国大会の開催について				本号本文120 //
	■第5回「土木学会映画コンクール」作品募集				本号本文123 //
	■構造物の耐風性に関する第2回シンポジウム開催と発表論文の募集				本号本文128 //
	■「荷重、外力と構造物の安全性」に関する研究発表論文募集				本号本文129 //
	■第9回衛生工学研究討論会講演募集				本号本文129 //

支 部 所 在 地

北海道支部：郵便番号 060・札幌市南1条西2丁目・勸銀ビル5階 (電 011-251-7038)
 東北支部：郵便番号 980・仙台市二日町 18-25・丸七ビル3階 (電 0222-22-8509)
 関東支部：郵便番号 160・東京都新宿区四谷1丁目・土木学会総務課内 (電 03-351-4133)
 中部支部：郵便番号 450・名古屋市中村区笹島町1丁目 232 番地 近畿日本鉄道(株)
 鉄道総局名古屋営業局施設部庶務課内 (電 052-582-3311・内線 251)
 関西支部：郵便番号 541・大阪市東区船場中央2丁目2番地・船場センタービル4号館409号
 (電 06-271-6686)
 中国四国支部：郵便番号 730・広島市基町 10 番 3 号・自治会館内 (電 0822-21-2666)
 西部支部：郵便番号 810・福岡市薬院2丁目 14 番 21 号 (電 092-78-3716)

土木学会総会ならびに土木学会全国大会の開催について

土木学会総会ならびに土木学会全国大会の実施要項は昭和 41 年 11 月 25 日の理事会で決定され、昭和 43 年から、それに従って同大会が実施されてきましたが、この実施要項を昭和 47 年から次のように改正しましたのでお知らせします。

土木学会総会ならびに土木学会全国大会実施要項

(昭和 47 年 5 月 12 日理事会決定)

1. 総 会

土木学会総会は、毎年東京において 5 月末に開催する。

2. 全国大会

- (1) 土木学会は、毎年秋季に全国大会を開催し、土木工学の進展に寄与する。
- (2) 全国大会の内容は特別講演会(会長講演および参加者に興味深い講演を加える)および年次学術講演会のほか、支部の事情により研究討論会、懇親会、映画会、見学旅行会とし、その会期は原則として見学旅行会を除き 3 日以内とする。
- (3) 年次学術講演会に発表する論文は広く会員より募集する。講演者は会員に限り、かつ、1 人 1 題とし、論文内容は原則として未発表のものとする。
- (4) 全国大会の開催地は 7 支部持まわりとし、その開催順序は、昭和 47 年度から、西部、北海道、中国四国、中部、関東、関西、東北支部の順とする。
- (5) 会長は、全国大会の開催順序に当る支部の支部長に、その実施を委任する。
- (6) 支部長は、全国大会の実施についての大綱を策定し、理事会の承認を得るものとする。

土木学会昭和 47 年度全国大会案内 <於福岡市> ▶ 10 月 20 日(金)~22 日(日) ◀

土木学会昭和 47 年度全国大会は、第 27 回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、研究討論会、映画会、懇親会、見学旅行会を次の日程で福岡市において開催いたします。

懇親会、見学会、講演概要集購入などの申込方法は、学会誌 7 月号でお知らせします。

1. 特別講演会：昭和 47 年 10 月 20 日(金) 9.00~12.00 九州大学

(未定)

九州の経済動向
大宰府の史蹟探訪

土木学会々長岡本舜三

九州山口経済連合会専務理事 浜 正 雄
福岡県文化財専門委員 筑 紫 豊

2. 第 27 回年次学術講演会：

昭和 47 年 10 月 20 日(金)	13.00~16.00	九州大学
10 月 21 日(土)	9.00~16.00	
10 月 22 日(日)	9.00~16.00	

3. 研究討論会：昭和 47 年 10 月 20 日(金) および 21 日(土) 16.00~17.30 九州大学

4. 映 画 会：

昭和 47 年 10 月 20 日(金)	13.00~16.00	九州大学
10 月 21 日(土)	9.00~16.00	
10 月 22 日(日)		

5. 懇親会：昭和47年10月21日(土) 18.30~20.00 西鉄グランドホテル

6. 見学会：昭和47年10月23日(月)

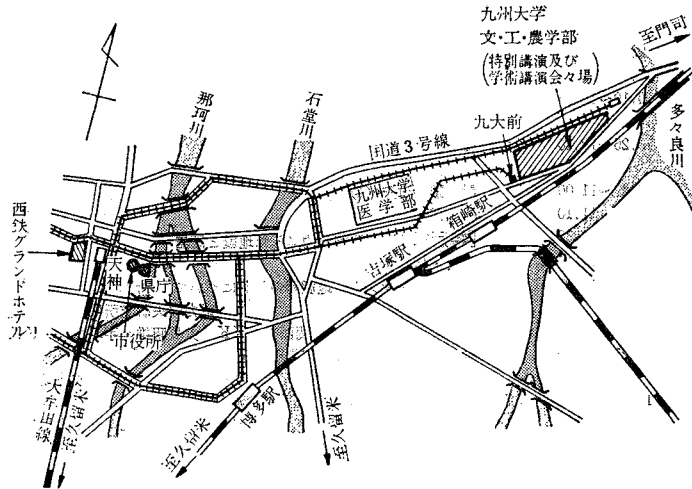
Aコース(関門架橋, 山陽新幹線新関門トンネル)

8.30(福岡バスセンター)~11.30(関門架橋, 新関門トンネル)~15.00(門司駅)~17.00(福岡着)

Bコース(玄海原子力発電所)

9.00(福岡バスセンター)~11.30(発電所着)~14.30(中食, 見学)~17.00(福岡着)

(会場略図)



映画会開催について<於土木学会講堂>

▶ 7月8日(土) ◀

1. 場所：土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車)
2. 日時：毎月第2土曜日 14.00~7月は8日(土)です。
3. 上映映画：7月は、次の映画を予定しています。

「振動の世界」 29分 神鋼炭電(株)提供

「超高層霞が関ビル」 42分 鹿島建設(株)提供

なお、上映映画は都合により変更することがございますので、あらかじめご了承ください。

4. 参加費：無料 土木関係以外の方も歓迎致します。

本映画会に関する問合せは、土木学会視聴覚教育委員会宛にお願い致します。

共催：土木学会関東支部

第 12 回地震工学研究発表会 < 於土木学会 >

▶ 7 月 18 日 (火) ~ 19 日 (水) ◀

標記研究発表会を下記により開催致しますので、多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1972 年 7 月 18 日 (火) ~ 19 日 (水)
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂 (東京都新宿区四谷 1 丁目, 国電, 地下鉄四ツ谷駅下車徒歩 5 分 外濠公園内 電話 (03) 351-5138 番)
3. 主 催：土木学会耐震工学委員会
4. プログラム：○印は講演者

第 1 日：7 月 18 日 (火)

- | | | |
|---------------|--|---|
| 9.30 ~ 9.40 | 開会あいさつ | 土木学会耐震工学委員会委員長 岡本舜三 |
| 9.40 ~ 9.55 | (1) 砂の任意波形動的三軸試験 | 東京大学地震研究所 ○浅野照雄・佐藤安一郎・伯野元彦 |
| 9.55 ~ 10.10 | (2) 地震波による砂の液状化 | 東京大学工学部 石原研而・○安田 進 |
| 10.10 ~ 10.25 | (3) ゼラチン等地震模型振動実験材料の弾性特性 | 建設省土木研究所 栗林栄一・木本正則 |
| | | 建設省近畿地方建設局 辻 勝成・KK 福山コンサルタント ○佐藤 進・石沢久邦 |
| 10.25 ~ 10.40 | (4) ゼラチンを用いた動的光弾性実験法 | 一土構造物における波動現象の解析—
東京大学生産技術研究所 ○森地重暉・加藤勝行 |
| 10.40 ~ 11.00 | 討 議 (1) ~ (4) | |
| 11.00 ~ 11.10 | 休 憩 | |
| 11.10 ~ 12.10 | [特別講演] 地質学的にみた地震と断層 | 東京大学助教授 松田時彦 |
| 12.10 ~ 13.10 | 昼食・休憩 | |
| 13.10 ~ 13.25 | (5) ロックフィルダムの地震時の挙動について | 電力中央研究所技術第 2 研究所 ○高橋 忠・沢田義博・国生剛治
関西電力KK 大長昭雄・手塚昌信・KK 新日本技術コンサルタント 園井仁彦 |
| 13.25 ~ 13.40 | (6) ロックフィルダムの常時微動測定 | 東京大学生産技術研究所 片山恒雄
大成建設KK 広野正道・浜田政則・○堀米昇士郎 |
| 13.40 ~ 13.55 | (7) ロックフィルダムの振動破壊実験について | 埼玉大学理工学部 岡本舜三・東京大学生産技術研究所 ○田村重四郎・加藤勝行 |
| 13.55 ~ 14.10 | (8) 八郎潟干拓堤防の地震動特性 (第 2 報) | 東北大学工学部 河上房義・東北工業大学工学部 ○浅田秋江 |
| 14.10 ~ 14.25 | (9) 常時微動による構造物の減衰常数推定の問題点 | 九州大学工学部 小坪清真・○鳥野 清・KK 大林組 串間正敏 |
| 14.25 ~ 14.40 | (10) 地震時における地中応力と地表面加速度の関係 | 京都大学防災研究所 土岐憲三 |
| 14.40 ~ 14.55 | (11) 加速度応答倍率スペクトルの分布について | 東京大学生産技術研究所 片山恒雄 |
| 14.55 ~ 15.30 | 討 議 (5) ~ (11) | |
| 15.30 ~ 15.40 | 休 憩 | |
| 15.40 ~ 15.55 | (12) 弾塑性 1 自由度構造物の地震応答解析—等価線形化解法の適用性— | 京都大学工学部 後藤尚男・○家村浩和 |
| 15.55 ~ 16.10 | (13) ロッキングを考慮した多自由度系の振動について | 北海道開発局土工試験所 井藤昭夫 |
| 16.10 ~ 16.25 | (14) 構造物—地盤系のモデル化と地震応答解析 | 九州大学工学部 小坪清真・九州工業大学工学部 ○高西照彦 |
| 16.25 ~ 16.40 | (15) 非線形応答が示す減衰の効果について | 東京都立大学工学部 園井隆弘 |
| 16.40 ~ 16.55 | (16) 構造物の不規則地震応答に関する一考察 — 応答包絡線による最大応答の推定法 — | 京都大学工学部 亀田弘行 |
| 16.55 ~ 17.10 | (17) 鋼桁橋の非弾性応答と耐震性 | 運輸省港湾技術研究所 林 聡・稲富隆昌・○土田 肇 |
| 17.10 ~ 17.40 | 討 議 (12) ~ (17) | |

第 2 日：7 月 19 日 (水)

- | | | |
|---------------|-------------------------------|--|
| 9.30 ~ 9.45 | (18) 本州四国連絡橋橋脚地盤系の耐震実験 | 本州四国連絡橋公団設計第 2 部 吉田 敏
建設省土木研究所 ○栗林栄一・岩崎敏男・若林 進・福田富三 |
| 9.45 ~ 10.00 | (19) 地震動を受けるつり橋塔基礎系の最適設計 | 京都大学工学部 ○山田善一・鹿島建設KK 坂本良夫 |
| 10.00 ~ 10.15 | (20) 5 径間吊橋の地震応答 | 建設省土木研究所 栗林栄一・○飯田 裕・福田富三
建設省関東地方建設局 高場正富 |
| 10.15 ~ 10.30 | (21) 耐震設計におけるグラフィックディスプレイの応用 | 京都大学工学部 山田善一・○古川浩平 |
| 10.30 ~ 10.50 | 討 議 (18) ~ (21) | |
| 10.50 ~ 11.00 | 休 憩 | |
| 11.00 ~ 12.00 | [特別講演] 耐震工学に望む | 国士館大学教授 沼田政矩 |
| 12.00 ~ 13.00 | 昼食・休憩 | |
| 13.00 ~ 13.15 | (22) サンフェルナンド地震における高架橋被害の静的検討 | 建設省土木研究所 栗林栄一・岩崎敏男・日本技術開発KK 工藤慎一
日本技術開発KK 石川喜男・○岸本俊雄 |
| 13.15 ~ 13.30 | (23) サンフェルナンド地震における高架橋被害の動的検討 | 建設省土木研究所 栗林栄一・岩崎敏男
建設省関東地方建設局 高場正富・日本技術開発KK 五十嵐 功・○佐竹正行 |
| 13.30 ~ 13.45 | (24) 設計震度決定における経済的考察 | 埼玉大学理工学部 ○岡本舜三・建設省土木研究所 栗林栄一
東京大学生産技術研究所 田村重四郎 |

- 13.45~14.00 (25) 地震火災時避難に関する一考察 東京大学地震研究所 ○伯野元彦・日本钢管KK 久松嘉彦
 14.00~14.20 討議 (22)~(25)
 14.20~14.30 休憩
 14.30~14.45 (26) Los Angeles 市水道管震害の特性 東京大学生産技術研究所 久保慶三郎
 14.45~15.00 (27) 地中埋設管の動特性について 京都大学工学部 後藤尚男・京都大学防災研究所 土岐憲三・○高田至郎
 15.00~15.15 (28) 沈埋トンネルの応答解析について 東京大学生産技術研究所 田村重四郎・首都高速道路公団 岡田郁生・大成建設KK ○浜田政則
 15.15~15.30 (29) 沈埋トンネルの地震応答 建設省土木研究所 ○岩崎敏男・若林 進・若月高晴
 建設省近畿地方建設局 辻 勝成
 15.30~15.45 (30) 沈埋面トンネルの地震応答解析について KK大林組技術研究所 ○後藤洋三
 KK大林組機械計算部 太田 順・KK東洋情報システム 佐藤拓男
 15.45~16.00 (31) 沈埋トンネル耐震設計用スペクトルについて 運輸省港湾技術研究所 青木義典
 16.00~16.30 討議 (26)~(31)
 16.30~16.40 閉会あいさつ

5. 講演概要：当日会場にて実費（定価未定）頒布致します。

6. 懇親会

下記により開催致しますのでご希望の方は氏名、勤務先、連絡先を明記のうえ、会費を添えて土木学会事業課宛お申込み下さい。

- (1) 日時：7月18日(火) 18.00~
 (2) 場所：土木学会土木図書館5号室
 (3) 会費：1000円
 (4) 定員：50名

第5回「土木学会映画コンクール」作品募集 (旧称 国土開発映画コンクール)

土木学会は過去4回にわたり「国土開発映画コンクール」を開催してまいりましたが、今回より「土木学会映画コンクール」と名称を改め下記要項により開催致しますので、ご応募下さいますよう、また、関係の向きにお勧め下さいますようお願い申し上げます。

本映画コンクールも回を重ねるごとに応募作品も増え、また、質的な向上とも相まって土木技術の普及、発展に大いに寄与することができたと自負致しております。

奮ってご応募下さいますようご案内申し上げます。

「土木学会映画コンクール」募集要項

1. 内 容：土木事業または土木技術を中心としたもの
 2. 規 格：16mm カラーフィルム トーキー 昭和45年10月以降完成の作品に限る
 3. 締 切：昭和47年9月30日
 4. 申 込 先：社団法人 土木学会編集課（東京都新宿区四谷1丁目 電話 03(351)5130）
 5. 審 査：土木学会映画審査委員会
 6. 賞 状：最優秀賞1編、優秀賞2編、準優秀賞3編、賞状ならびに賞牌
 （該当作品のない場合は変更することがあります）
 7. 発 表 会：昭和47年12月9日(土) 土木学会土木図書館講堂
- なお、土木学会選定映画はコンクール候補作品と致しますので、再提出して頂きます。
 - 応募希望者は申込先へ申込用紙をご請求下さい。

第 8 回水工学に関する夏期研修会 < 於土木学会 > ▶ 7 月 26 日 (水) ~ 8 月 3 日 (木) ◀

第 8 回水工学に関する夏期研修会を下記により開催いたしますのでふるってご参加下さいませようご案内いたします。

1. 開催期日: 1972 年 7 月 26 日 (水) ~ 8 月 3 日 (木)

2. 会 場: 社団法人土木学会土木図書館講堂

(東京都新宿区四谷 1 丁目, Tel. 351-5138 国電, 地下鉄四谷駅四谷口下車徒歩 5 分 外濠公園内)

3. 対 象: 大学終了程度

4. 題目・講師および日程 (題目は多少変更することがあります)

A コース: 7 月 26 日 (水) ~ 7 月 29 日 (土)

7 月 26 日 (水)	9.00~10.00	[特別講義] 水資源開発上の諸問題	東京工業大学	吉 川 秀 夫
	10.00~12.30	ダムの水理	電力中央研究所	安 芸 周 一
	13.30~16.30	各種流出モデルの比較	建設省土木研究所	木 下 武 雄
7 月 27 日 (木)	9.00~12.00	水理学水文学におけるシステム解析	東京工業大学	日 野 幹 雄
	13.00~15.00	河道平面計画	自由学園	木 下 良 作
	15.00~17.00	治水史的にみた利根川の特徴	東京大学	高 橋 裕 裕
7 月 28 日 (金)	9.00~12.00	河口問題と現地調査	建設省土木研究所	須 賀 堯 三
	13.00~15.00	土石流調査	京都大学防災研究所	奥 一 田 節 夫
	15.00~17.00	広域利水調査	経済企画庁	中 沢 式 仁
7 月 29 日 (土)	9.00~12.00	移動床流れの粗度と河床形状 (I)	北海道大学	岸 力
	13.00~15.30	移動床流れの粗度と河床形状 (II)	京都大学防災研究所	芦 田 和 男
	15.30~16.30	水理学の国際的動向	中央大学	林 泰 一 造
	16.30~16.50	終了式		

B コース: 7 月 31 日 (月) ~ 8 月 3 日 (木)

7 月 31 日 (月)	9.00~12.30	波の理論	東京工業大学	推 貝 博 美
	13.30~16.30	越波およびはい上り	建設省土木研究所	橋 本 宏
8 月 1 日 (火)	9.00~12.00	高潮・津波 (数値解析を中心として)	理化学研究所	宇野木 早 苗
	13.00~16.00	最近の漂砂対策工法	運輸省港湾技術研究所	佐 藤 昭 二
8 月 2 日 (水)	9.00~12.00	沿岸海洋における拡散予測	電力中央研究所	和 田 明
	13.00~15.00	沿岸付近の流れ	東京大学	堀 川 清 司
	15.00~17.00	臨海レクリエーション施設	東海大学	酒 匂 敏 次
8 月 3 日 (木)	9.00~12.00	海洋構造物の諸問題	運輸省港湾技術研究所	伊 藤 喜 行
	13.00~15.00	沿岸海洋に関する水理模型実験	京都大学防災研究所	樋 口 明 生
	15.00~17.00	[特別講義] クノイド波理論の実用化	京都大学	岩 垣 雄 一
	17.00~17.20	終了式		

5. 定 員: A コース 130 名 B コース 130 名

6. 参 加 費: 1 コースにつき 6000 円 (テキスト代を含みます)

7. 申込み方法: 受講希望者は, ① 氏名, ② 勤務先および職名, ③ 連絡先住所, ④ コース名を明記のうえ参加費 (現金書留) を添えてお申込み下さい。

8. 申 込 先: 社団法人土木学会事業課 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 電話東京 (03) 351-5138)

9. 申 込 期 限: 7 月 6 日 (木)

昭和 47 年度夏期講習会 <於東京>

▶ 8 月 30 日 (水) ~ 31 日 (木) ◀

最近、市街地における土木工事の複雑化やガス爆発事故、酸素欠乏現象の発生等から、建設省の「市街地土木工事公衆災害防止対策要綱」が改正されたこと等を考慮し、本年度は「市街地土木工事の仮設と安全対策」のテーマにより夏期講習会を開催いたします。本講習会では市街地における土木工事の施工に当って遵守すべき前記要綱を中心に下記テーマにつき現在第 1 線で活躍中の方々により詳細に講習されることになっており、斯界進展に資するところ大であると思われまのでふるって参加されるようおすすめします。

1. 期 日：1972 年 8 月 30 日 (水), 31 日 (木) の 2 日間
2. 場 所：厚生年金会館小ホール (新宿区番衆町 19・Tel. 356-1111)
3. 参加費：会 員 4 000 円, 非会員 4 500 円 (予定, 含テキスト代)
4. テキスト：市街地土木工事の仮設と安全対策

5. 内 容：

(8 月 30 日)

- | | | |
|-------------|------------------------|----------------------------|
| 9.45~10.00 | 開 会 挨拶 | 土木学会長 岡本舜三 |
| 10.00~11.00 | 市街地土木工事公衆災害対策要綱の改正について | 建設省計画局建設業課専門官 鈴木恒夫 |
| 11.00~12.00 | 市街地における工事現場の安全対策 | 帝都高速度交通営団建設本部工事第 1 課長 蟻川達郎 |
| 12.00~13.00 | 昼 食 休 憩 | |
| 13.00~14.00 | 作業場付近の交通対策 | 警視庁交通部交通規制課 若林徹雄 |
| 14.00~15.00 | 営業線近接工事の安全対策 | 日本国有鉄道東京第 3 工事局次長 田中和夫 |
| 15.00~15.15 | 休 憩 | |
| 15.15~16.15 | 埋設物の保安処理 | 東京ガス(株)供給管理室 山口靖之 |
| 16.15~17.15 | 酸素欠乏症 | 労働省安全衛生部労働衛生課 中西吉造 |

(8 月 31 日)

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------------|
| 9.30~10.30 | 土 留 工 | 鹿島建設(株)土木部技術課長 堀井陽三 |
| 10.30~11.30 | 路 面 覆 工 | 東京都交通局第 1 建設事務所長 吉田収一 |
| 11.30~12.30 | 昼 食 休 憩 | |
| 12.30~13.30 | 重量物の運搬と架設 | (株)東京鉄骨橋梁製作所工事部長 松岡亮一 |
| 13.30~14.30 | 市街地における杭打ち作業 | 前田建設工業(株)東京支店 中野衛 |
| 14.30~14.45 | 休 憩 | |
| 14.45~15.45 | コンクリート地下連続壁の施工 | (株)大林組技術部設計課主任技師 東浦信光 |
| 15.45~16.45 | 足場と支保工 | 大成建設(株)安全課主任 黒沢透 |
| 16.45~17.00 | 閉 会 挨拶 | 土木学会行事企画委員会委員長 森 茂 |

6. 申込方法：本誌添付の申込書に必要事項を記入のうえ、参加費を添えて 8 月 10 日までにお申込下さい。なお、定員がありますので満員の際はお断りすることがあります。
7. 申 込 先：東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課

膨張性セメント混和材を用いたコンクリートに関するシンポジウム〈於土木学会〉

▶ 8月24日(木) ◀

標記シンポジウムを下記により開催いたしますので、参加希望者はふるってご参加下さい。

1. 主 催：土木学会コンクリート委員会
2. 日 時：1972年8月24日(木) 9.30~17.00
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂(新宿区四谷1丁目・四谷駅下車5分)
4. 講演概要：1500円(当日も頒布しますが、事前に入手希望の方には7月末日には発行いたしますので、ご送金いただければ着金次第お送りします。)
5. 参加費：無 料
6. 申込方法：参加希望者は官製ハガキに氏名、勤務先、連絡先を明記のうえ8月10日までに土木学会事業課(新宿区四谷1丁目)にお申込み下さい。定員(200名)がありますので満員の際はお断りすることがあります。
7. その他：当日は討論を十分行なっていただきたく、また討論希望者はスライド等も使用可能です。
8. 内 容：(1講演 8分程度)

- 開 会 検 拶 土木学会コンクリート委員会委員長 國 分 正 胤
- I (1) 膨張性セメントコンクリートの初期長さ変化 清水建設 岡田武二・中西正俊
 (2) CSA系セメントモルタルの長さ変化等に関する諸要因の効果(実験計画法による検討) 清水建設 中西正俊・岡田武二
 (3) 膨張セメントの膨張圧について 東大生研 小林一輔・伊藤利治
 (4) 膨張コンクリートの膨張性状に関する一考察 東 洋 大 岩崎訓明・坂本信義・駒 傑雄
 (5) 各種セメントコンクリートに及ぼす石灰系膨張材の影響 小野田セメント 河野俊夫・一家惟俊・中野昌之・綿貫輝彦
 (1)~(5) 討 議
 (6) 膨張材混和コンクリートの拘束膨張量測定方法に関する検討 小野田セメント 河野俊夫・一家惟俊・久保田八郎・中野昌之
 (7) ケミカルプレストレストコンクリートの試験方法について 東京大 國分正胤・法政大 小林正凡・東工大 長滝重義・東京大 岡村 甫・埼玉大 町田篤彦
 (8) 膨張セメントコンクリートのクリープ特性 東 工 大 長滝重義・後藤裕司
 (9) 膨張セメントコンクリートのセルフプレストレスおよびクリープに関する一実験 京 都 大 岡田 清・平沢征夫
 (6)~(9) 討 議
- 休 息
- II (1) 拘束養生した膨張セメントコンクリートの性質(ケミカルプレストレスと組織の変化) 早稲田大 神山 一
 (2) 膨張セメントコンクリートの細孔分布と水密性および付着強度 都立大 村田二郎・大塚茂雄・長岡工専 国府勝郎
 (3) 膨張セメントを用いたコンクリートとPC鋼線との付着について 東 北 大 後藤幸正
 (4) ケミカルプレストレストコンクリート部材の力学的特性 東京大 國分正胤・岡村 甫・辻 幸和
 (5) 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートの凍結融解に対する抵抗性について 法政大 小林正凡・東京大 岡村 甫
 (6) 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートの熱拡散率に関する研究 秋 田 大 庄谷征美
 (1)~(6) 討 議
- 休 息
- III (1) 膨張性セメント混和材の使用方法和主な用途例 電気化学 三宅信雄
 (2) CSA系膨張コンクリートのひびわれ防止効果について 電気化学 三宅信雄・巖 巖・木下 旭
 (3) 膨張混和材を用いたプレストレストコンクリートの舗装について 東 北 大 榎田 正
 (4) 膨張セメントコンクリートの舗装への応用に関する研究 東工大 長滝重義・新潟大 米山純一
 (5) 膨張性セメント混和材を用いたコンクリートの地下鉄構造物への実施例 交通営団 渡辺 健・長沢 諒
 (6) 膨張性モルタルを用いた柱とはりの結合について 国 鉄 富 木 弘
 (7) ひびわれ岩盤におけるアンカー充てん材(膨張性モルタル)の効果について 北陸電力 吉川貞治
 (8) ケミカルプレストレスを導入する鉄筋コンクリート管の拘束条件に関する研究 日本セメント 門 司 唱
 (9) 膨張性セメントを用いた人工軽量コンクリートのポンプ打ち施工 日建設計 津田三知昭
 (1)~(9) 討 議
- 閉 会 検 拶 國 分 正 胤

第5回土木計画学講習会

▶ 東京会場 9月4日(月)~5日(火)
▶ 大阪会場 9月11日(月)~12日(火)

昭和43年8月に第1回の土木計画学講習会を開催いたしましたから、はやくも本年で5年目の夏を迎えようとしております。この間「ネットワーク手法」「資料整理」「将来予測」「計画手法と情報の抽出」「PERT CPM」「PPBS」「待ち行列」「割当て」「最適化手法」などを主題としまして4回の講習会を開き、多くの参加者を迎えて、大きな成果をあげてまいりました。

本年は、これら上記の成果をふまえて、とくに「費用便益分析の手法」を主題として、土木以外の講師もお迎えして実施することといたしました。

周知のとおり、土木計画の経済的側面からの評価に際して、費用便益分析は最も一般的に用いられているものであります。しかし、実際に分析などの作業に際しましては、その調査・測定・評価にしばしば苦心するところであります。

今回の講習会は、その内容・講師・時期など適切かつ充実したものでありますので、より多くの関係者の参画をお待ちするところであります。

1. 主 題：土木計画における費用便益分析

2. 主 催：土木学会土木計画学研究委員会

3. 期 日：

▶ 東京会場：1972年9月4日(月)~9月5日(火) 於 土木学会図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内/国電・地下鉄四ツ谷駅四谷口下車徒歩5分/電話(03)351-5138番)

▶ 大阪会場：1972年9月11日(月)~9月12日(火) 於 大阪科学技術センター4階401号室(大阪市西区靱1丁目118番地/地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m、靱公園北東角地/電話(06)443-5321番)

4. プログラム：(第1日)

9.30~9.40 開会あいさつ

9.40~11.40 費用便益分析の理論的背景

東工大 阿部 統

12.40~14.40 公共投資における経済分析

運輸省 大塚 友則

15.00~17.00 交通計画における費用便益分析

東工大 菅原 操

(第2日)

9.30~11.30 河川計画における費用便益分析

建設省 佐々木 才郎

12.30~14.30 道路計画における費用便益分析

建設省 山根 孟

14.45~16.45 港湾計画における費用便益分析

運輸省 川崎 芳一

16.45~16.55 閉会あいさつ

5. 参加費：会員 @3500円, 会員外 @4000円(ただし、テキスト代を含む)

6. 申込み方法：参加希望者は、A4判大の用紙に、①氏名、②所属官職名、③連絡先(住所・氏名・郵便番号・職場/自宅区分、を明記のこと)、④会員区分、⑤連絡事項、を明記のうえ、参加費を添えて現金書留で下記あて申込んで下さい。ただし、前金が不都合な際は、上記①~⑤項を明記の用紙を下記あて送付して下さい。

〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局土木計画学講習会係 電話(03)351-5130番

昭和 47 年度 高校土木科教職員を主対象とする 夏期講習会<於大阪市>

▶ 8 月 2 日 (水) ~ 4 日 (金) ◀

主 テ ー マ : 「土木工事の積算」

主 催 : 土木学会高校土木教育研究委員会

共 催 : 西日本高校土木教育研究会・東日本高校土木教育研究会・近畿高校土木会

後 援 : 土木学会 関西支部

期 日 : 1972 年 8 月 2 日 (水), 3 日 (木), 4 日 (金) (ただし, 4 日 (金) は希望者による見学会)

会 場 : 大阪市立科学技術センター 401 号室 (大阪市西区靱 1 丁目 118 番地)

参 加 費 : 学校関係者; 2,500 円 (テキスト代・見学会費を含む)

一 般; 3,000 円 (" ")

定 員 : 140 名 (学校関係者は優先とします)

申 込 期 日 : 定員になり次第締切とします

申 込 方 法 : 氏名・勤務先・所属・住所等を記入のうえ, 現金書留便にて次へ申込んで下さい (なお, 納入された参加費は原則として返金いたしません。)

申 込 先 : 〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 (社) 土木学会事務局編集課 へて

講 師 ・ プ ロ グ ラ ム :

(第 1 日目)	12.30~13.00	換	拶	主催者代表
	13.00~15.00	土木工事の積算概要 成田久夫 (建設省近畿地方建設局)		
	15.30~17.00	積算のシステム化 鈴木達彦 (建設省近畿地方建設局)		
(第 2 日目)	9.30~12.00	実	例	矢木茂昭 (株鷗池組)
	13.00~16.30	演	習	柴田祐三 (建設省近畿地建)

見 学 先 : ① 中国縦貫道 (六甲トンネル) ~ ② 神戸ポートアイランド埋立工事 ~ ③ 大阪南港大橋工事 など
を予定し, 各関係機関と交渉中。詳細は後日, 希望者に連絡します。

構造物の耐風性に関する第 2 回シンポジウム開催と発表論文の募集

構造物の耐風性に関し気象・土木・建築・電気の各分野における研究成果と技術の交流を目的として
標記シンポジウムを開催することになりました。会員各位には下記規定をご参照のうえ発表論文をふる
ってご応募下さい。

共催 : 電気学会・土木学会・日本気象学会・日本建築学会・日本鋼構造協会

1. 開催期日 : 1972 年 12 月 4 日 (月) ~ 12 月 5 日 (火)

2. 会 場 : 気象庁講堂 (東京都千代田区大手町 1-7, 地下鉄東西線竹橋下車徒歩 3 分) の予定

3. 発表論文の募集 :

- (1) 課題 : 課題は次によるものとし, 論文の内容は独創性のあるものでなければならない
a) 強風の性質, 設計風速, b) 風圧および風荷重, c) 風の動的作用と構造物の応答, d) 耐風設計方
法, 施工例, e) 風害
- (2) 応募の方法 : a) 論文提出希望者は 1972 年 7 月 31 日までに所属学協会, 氏名 (連名の場合は発表者に○
印を付する), 勤務先, 職名, 連絡先を明記のうえ邦文 800 字以内の内容概要を所属学協会に提出する。
b) シンポジウム組織委員会は発表論文の採否を 8 月 14 日までに決定し応募者に通知する。
c) 採用された論文著者は 1972 年 9 月 30 日までに原稿を所属学協会または幹事学会である日本建築学会
(〒104 東京都中央区銀座 3-2-19, 電話 (03) 535-6511) に提出する。
- (3) 発表論文 : 発表論文執筆要項については, 論文採否の決定の際, 執筆者に改めて執筆要項をお送り致しま
すが, ページ数は 8 ページ以内 (英文概要を含む) の偶数ページを予定しております。

第 19 回海岸工学講演会 <於東京>

▶ 11 月 13 日 (月) ~ 14 日 (火) ◀

第 19 回海岸工学講演会を下記により開催致します。講演採用の連絡のあった方は期日までに原稿を提出して下さい。

なお、期日に遅れたものは受け付けられませんのでご注意下さい。

1. 開催期日：1972 年 11 月 13 日 (月), 14 日 (火)
2. 場 所：第 1 会場：日消ホール (東京都港区西久保明舟町) 地下鉄虎ノ門下車徒歩 3 分
第 2 会場：発明会館 (" ")
3. 講演原稿締切：1972 年 7 月 15 日 (土) 必着
4. 講演申込先および連絡先：
〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 社団法人土木学会海岸工学委員会
電 (03) 351-5138 (代表)

「荷重、外力と構造物の安全性」に関する研究発表論文募集
(第 19 回橋梁・構造工学研究発表会)

例年行なわれております橋梁・構造工学研究発表会を、本年度は標題のテーマにより、下記のとおり開催致します。趣旨につきましては本誌 56 巻 3 号 (昨年 3 月) にも予告致しましたが、多数の方がふるって論文提出にご応募下さい。なお、今回は、できましたらパネル討論のようなものも企画してみたいと考えております。

記

1. 期 日：1972 年 12 月 1 日 (金)
2. 会 場：(未定)
3. 主 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
4. 申込要領：
 - (1) 内容：次の各項に関する独創的な実験あるいは理論的研究を対象とする。
 - ① 荷重の実態と構造物の安全性との関係
 - ② 動的外力に対する構造物の応答と安全性
 - ③ 大規模構造物における安全性評価上の諸問題
 - (2) 申込方法：8 月末日までに論文題目、発表者氏名 (連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先および連絡先と、100 字以内の内容概要を添えて、学会宛お申込み下さい。採否は日本学術会議構造研究連絡委員会にお任せ願います。採用のうちは、10 月 15 日までに講演原稿の提出をお願いすることになります。

第 9 回衛生工学研究討論会講演募集

土木学会衛生工学委員会は、下記の予定で研究討論会を実施しますので、論文提出者をご応募下さいますようご案内いたします。

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1973 年 1 月末日の 2 日間
3. 場 所：東北大学
4. 論文内容：本年度は自由課題といたします。
5. 申込方法：9 月 30 日までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会までご提出下さい。なお原稿は学会指定のオフセット原稿用紙 (申込み次第送付) をご使用下さい。原稿枚数は 8 枚までとし、期限を厳守下さい。昨年と同様、討議論文 1~2 編を付して印刷いたします。特定の討議者をご希望の場合は、希望討議者氏名を同封して下さい。原則として別刷りはお断りします。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会 (〒160 東京都新宿区四谷 1 丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。

中部支部行事案内

(郵便番号 450 名古屋市 中村区 笹島町 1-232 近畿日本鉄道(株) 鉄道総局 名古屋) 営業局 施設部総務課内 電 052-582-3311 内線 251

(1) 昭和 47 年度中部支部第 1 回講演会

▶ 7 月 14 日 (金) ◀

1. 日 時: 1972 年 7 月 14 日 (金) 13.30
2. 場 所: 愛知県産業貿易館 4 階第 1 会議室
名古屋市 中区丸の内 3 丁目 1-6 (地下鉄「市役所」下車, 大津橋を西へ徒歩 5 分)
3. 講演者および演題:
 - ① 都市とみなと 運輸省第五港湾建設局設計室長 小 合 彬 生
 - ② 名古屋フェリーふ頭について 名古屋フェリー埠頭公社工務課長代理 大 林 隆
 - ③ コンペアー方式による新しい埋立工事 (四日市霞ヶ浦工業用地造成)
四日市港管理組合技術部長 北 澤 四 郎
 - ④ 大水深のサンドドレーン工法 (名古屋港金城埠頭岸壁工事)
運輸省第五港湾建設局名古屋港工事事務所長 中 島 幹 夫

(2) 昭和 47 年度中部支部第 1 回見学会

▶ 6 月 21 日 (水) ◀

1. 日 時: 1972 年 6 月 21 日 (水) 9.00
2. 見 学 先: 愛知県青少年公園, ほか
3. 集 合 場 所: 名古屋テレビ塔北観光バス発着所 (地下鉄「栄」下車)
4. 行 程: 9.10 テレビ塔下出発 (バス) → 愛知県青少年公園 (見学) → 猿投グリーンロード → 足助香嵐溪 (屋敷) → 豊田自動車工場 (見学) → テレビ塔下着 16.10 (解散)
5. 定 員: 50 名 (バス 1 台)
6. 会 費: 300 円
6. 申 込 み: 土木学会中部支部へ 6 月 11 日までに会費を添えて申込んでください。

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市 東区船場中央 2 丁目 2 番地 船場センタービル 4 号館) 409 号 電 06-271-6686 番 振替口座大阪 82599 番

(1) 鉄骨鉄筋コンクリート (S.R.C.) 設計基準に関する講習会

▶ 7 月 25 日 (火) ◀

共催 (社) 土木学会関西支部・(社) 建設コンサルタンツ協会大阪支部・建設技術資料センター
後援 (社) 日本鋼構造協会・コンクリート研究会

現在, わが国の S.R.C. 構造物の設計にさいしては, 許容応力度方式の累加強度式による日本建築学会の「鉄骨鉄筋コンクリート構造設計規準」, 首都および阪神高速道路公団の「鉄骨鉄筋コンクリート設計基準」によるほか, 許容応力度方式の RC 式によることが多いのでありますが, 土木構造物における一般的な S.R.C. 設計基準については, 累加強度式のもつひずみの適合条件の不満足な点, 曲げとせん断との統一された方法がとられていない点等から, 一般性あるいは普遍性を有するものがないのも現状であります。

すなわち, これらを背景に, 既往の文献のまとめと若干の調査研究による補足を行なって, S.R.C. 構造物の実施設計に必要な一応の指針を得るため, 昭和 46 年度に本州四国連絡橋公団より (社) 建設コンサルタンツ協会に「鉄骨鉄筋コンクリート設計資料作成に関する調査」が委託され, 昭和 47 年 2 月, これに対する報告書の完成後, 担当の S.R.C. 研究委員会において, この報告書全文ならびに計算例等の補足を含む第 3 次 (昭和 46 年度) 報告書の作成が行なわれることになり, ここに, 本州四国連絡橋公団のご好意によって, これについての説明を主とした講習会を開催することになりました。

については、今後の土木分野において要求度が高まってくると思われます。S.R.C. 構造物の設計に関して理解をいただく絶好の機会でもありますので、関係者各位の多数のご参加をおすすめいたします。

記

1. 日 時：1972年7月25日(火) 9.30~17.10
2. 会 場：大阪科学技術センター 8階大ホール 電話大阪(06) 443-5321 番
大阪市西区靱1丁目 118 番地
(地下鉄四ツ橋線本町下車、北へ 150m、靱公園北東角)

3. 題目と講師：

- | | | | |
|-------------|--|-------------------------------------|------------------|
| 9.30~9.40 | 開会挨拶 | 土木学会関西支部支部長
建設コンサルタンツ協会大阪支部支部長 | 藤田 駿 五 |
| 9.40~10.00 | ① 調査研究の概要 | 京都大学工学部 | 岡田 清 |
| 10.00~10.50 | ② S.R.C. 設計基準(第1次素案)の概要 | 神戸大学工学部 | 藤井 学 |
| 11.00~11.30 | ③ 適用範囲、記号、材料、設計荷重、許容応力度、設計計算の一般事項 | 阪神高速道路公園 | 杉山 功 |
| 11.30~12.00 | ④ 設計計算の一般事項 | 協和設計(株) | 本下 稔 |
| 13.00~14.20 | ⑤ 部材の算定(はり・柱・スラブ・壁・せん断力に対する算定・付着および鉄筋の定着・おじり・ひび割れ幅の制限) | (株)新日本技術コンサルタント | 小森 久 信 |
| 14.30~15.20 | ⑥ 接合部の算定(ラーメン隅角部の設計・継手・柱脚アンカー部の設計) | (株)橋梁コンサルタント大阪営業所
中央復建コンサルタント(株) | 田付 久 雄
熊本 隆 弘 |
| 15.20~16.00 | ⑦ 設計計算例(アンカー部・長方形断面部) | 中央復建コンサルタント(株) | 熊本 隆 弘 |
| 16.00~17.00 | 討議(討論者：京都大学防災研究所 若林実/同工学部 森田司郎/首都高速道路公園 山寺徳明)
司 会：京都大学工学部 小柳治 | | |
| 17.00~17.10 | 閉会挨拶 | 土木学会関西支部幹事長
建設コンサルタンツ協会大阪支部副支部長 | 塩見 武 弘 |

4. 定 員：300名(先着順)

5. 参加費：会員(後援会員を含む) 3800円(B5・約350ページ、オフセット印刷の報告書代を含む)

ただし、当日は5700円となりますので期限内に前納して下さい。

非会員 5700円(報告書代を含む)

なお、本報告書は建設コンサルタンツ協会の非売品でありますので、報告書のみの頒布はいたしません。

6. 申込期限：1972年6月30日(金)

7. 申込方法：参加希望者は、勤務先・連絡先・氏名・会員種別(所属学・協会名)を明記(様式随意)し、参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込みください。なお、参加者には参加証をお送りしますから、当日必ずご持参ください。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかもしれませんのでご了承ください。

申 込 先：土木学会関西支部 電話 大阪(06) 271-6686 番

(郵便番号 541) 大阪市東区船場中央2丁目2番地

船場センタービル4号館 409号

(振替口座 大阪 82599 番)

(付) テキスト頒布ならびに送料改正について

	頒 価	送 料
騒音・振動公害一測定と評価の問題点とその動向一	1500円	130円
最近の機械化施工の趨勢と問題点	1400円	130円
都市廃棄物の処理と処分	1000円	100円
土木工事における土中水の扱い方	1800円	130円
工程管理(演習問題解答付)	1800円	160円
講習会「工程管理の基礎」資料(残部僅少)	500円	90円
シールド工法研究会資料		
(地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の2点1組)	200円	90円
公害振動測定法(案)	無 料	60円

昭和 46 年度関西支部	{ 正 会 員 学 生 会 員 非 会 員 }	200 円	160 円
年次学術講演概要		100 円	160 円
		700 円	160 円
工事の安全対策		600 円	130 円
近畿開発と大型土木プロジェクト		350 円	100 円
写真測量とその応用		700 円	130 円
次のテキスト 2 点は昭和 47 年 12 月 30 日以降廃棄処分の見込みです。			
水理学・水文学における最近の進歩		900 円	160 円
プレストレストコンクリート最近の進歩		700 円	130 円
上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込みください。			

西部支部行事案内(郵便番号 810 福岡市薬院 2 丁目 14 番 21 号)
電 092-78-3716

(1) 夏 期 講 習 会

▶ 8 月 24 日 (木) ~ 25 日 (金) ◀

1. 開催期日：1972 年 8 月 24 日 (木) 9.00~17.0
8 月 25 日 (金) 9.00~11.3
2. 会 場：阿蘇，白雲山荘 (豊肥線赤水駅前)
3. 参 加 料：2 000 円 (テキスト代を含む)
4. 宿泊予約料：1 人につき 1 000 円 (1 泊 2 食 2 300 円 (税込))
5. 申 込 方 法：申込書に勤務所または住所氏名，宿泊日 (23 日，24 日) を明記のうえ，参加料および宿泊予約料を添えて申込むこと (不参加の場合，宿泊予約料は払戻せず，講習会テキストは送付します)。
6. 申 込 期 限：1972 年 8 月 10 日，先着 150 名まで
7. 申 込 先：〒 810 福岡市中央区薬院 2 丁目 14-21 土木学会西部支部
8. そ の 他：申込みは便宜用紙で結構です。支部にて印刷のうえ，関係の向きには送付します。不着の場合は支部に請求して下さい。
9. 講演題と講師 (順序未定) (敬称略)

8 月 24 日 (木)

県下の土木事業について (仮題)
最近の土木材料とコンクリート工学の話題
湾内堆積汚染泥土の液漂にともなう諸問題
構造解析の基本原理と有限要素法
黒之瀬戸大橋の概要について
新関門トンネルについて
六角川河口堰の計画と施工について
響灘開発について

熊本県土木部長	信 田 正 雄
九州工業大学 教授	渡 辺 明
熊 本 大 学 教授	三 池 亮 次
九州大学 講師	彦 坂 照
日本道路公団 黒之瀬戸大橋工事事務所長	増 永 勳 三
日本国有鉄道 下関工事局線増第 1 課長	吉 川 恵 也
九州地方建設局竹尾工事事務所長	浜 浩 純
第四港湾建設局洞海湾工事事務所長	飯 島 昭 美

8 月 25 日 (金)

最近の場所打杭と連続壁工法の現況
シールド工事の現況と方向について

大成建設土木部技術室主任	泉 兼 一
熊谷組技術研究所第 2 部長	田 中 壬子也